

Title	日本語学者ヨハン・ヨーゼフ・ホフマン旧蔵日本書籍目録 (試案)
Author(s)	奥田, 倫子
Citation	書物・出版と社会変容, 14: 119-166
Issue Date	2013-03-10
Type	Journal Article
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10086/25571">http://hdl.handle.net/10086/25571</a>
Right	

# 日本語学者ヨハン・ヨーゼフ・ホフマン

## 旧蔵日本書籍目録(試案)

奥田 倫子

### はじめに

1855年、オランダのライデン大学に、世界で最初の日本語学の教授職が置かれた。その座に就いたのは、ヨハン・ヨーゼフ・ホフマン(Johann Joseph Hoffmann, 1805-1878)である。鎖国下の日本で国禁の地図を持ち出そうとして捕らえられたフィリップ・フランツ・フォン・シーボルト(Philipp Franz von Siebold, 1796-1866)と同じヴェルツブルグ生まれのドイツ人だった。1830年にベルギーのアントワープでシーボルトに出会い、彼の助手としてライデンにやってきた。1825年にパリで出版されたロドリゲス著『日本小文典』の仏語訳<sup>1</sup>を用いて日本語の構造を学んだ。また、シーボルトの中国人助手・郭成章から中国語を習い、中国語の知識を通して日本語文献を読み解いた<sup>2</sup>。やがて日本語に熟達すると、日本の文献から得た情報を学術誌やシーボルトの編著に発表し、シーボルトの学術活動に寄与した。1846年には、その中国語能力・日本語能力を見込まれてオランダ政府の公式翻訳官になり、以後、幕末の日蘭関係の一角を支えた。1855年の教授就任以降、日本語文法についてのいくつかの重要な著作を発表した。1857年にはオランダ商館長ドンケル・クルティウス(Jan Hendrik Donker Curtius, 1813-1879)が長崎から送った原稿に大幅な補筆をして、*Proeve eener Japansche Spraakkunst*(『日本語文典例証』)<sup>3</sup>を完成させた。また1867年には、三十年以上に及ぶ日本語の学習と研究の成果を*Japansche Spraakleer*(『日本語文典』)<sup>4</sup>として出版した。後者は、英語や独語にも翻訳され、また第二版も出版された。生涯日本を訪れることのなかったホフマンにとって、当時ライデンで使用することのできた多数の日本書籍は重要な研究資源であった。その中には、シーボルト等出島のオランダ商館員が持ち帰った書籍のほか、彼自身の蔵書もあった<sup>5</sup>。

民族学・言語学についての欧文書籍・中国書籍・日本書籍から成る彼の蔵書は、没後の1878年に、ライデン大学図書館に購入された。しかし、大学図書館の受入簿には欧文書籍しか記録されず、購入時に作成された中国書籍・日本書籍の手書きの目録のうち、日本書籍の目録は現在、所在不明である。また、蔵書票等直接的な手がかりも明らかになっていない。そのため、世界で最初の日本語学教授ホフマンが手元に置き、参照した日本書籍については、その点数もタイトルも、全体像が明らかになっていない。

(2)

筆者は、2009年9月から2011年8月までライデンに滞在し、現在ライデン大学図書館本館特別コレクション室が所蔵する日本書籍のうち、ホフマンに由来する書籍を特定することを試みた。本稿では、調査の結果推定するホフマン旧蔵日本書籍の目録試案を提示する。

## 1 ライデン大学図書館本館特別コレクション室所蔵日本書籍の来歴

ライデンにおける日本書籍集積の歴史については、*Royal Cabinets and Auxiliary Branches: Origins of the National Museum of Ethnology, 1816-1883* (Leiden: Research School CNWS, 2008) <sup>6</sup> に詳しい。また、拙著「世界図書館紀行 ライデン大学図書館本館特別コレクション室」(『国立国会図書館月報』第618号) <sup>7</sup> でも紹介したので、そちらを参照されたい。

ここでは、現在ホフマン旧蔵書を所管しているライデン大学図書館本館特別コレクション室(以下「大学図書館」という。)所蔵の日本書籍についてのみ、その収蔵の歴史を振り返っておく。既によく知られているところは、大学図書館が提供するコレクションガイド <sup>8</sup> に端的に書かれているので、少々長くなるが引用する。(日本語訳は筆者による。以下、本稿中の日本語訳について同じ。)

### 沿革

ライデン大学図書館の日本書籍・地図コレクション—広く「シーボルトコレクション」として知られているが、正確に実態を表していない—の歴史は、長崎湾に造られた人口の小島「出島」に置かれたオランダ商館の存在と密接に関わっている。1640年から1853年まで、オランダ人は日本の地を踏むことのできた唯一のヨーロッパ人だった。

17世紀以来、大学図書館に単発的に入ってきた資料には、たとえば1592年にイエズス会の印刷所で発行された *Fides no doxi* などがある。

しかし、日本書籍コレクションの核となっているのは出島のオランダ商館員ヤン・コック・ブロムホフ (Jan Cock Blomhoff, 1779-1853)、ヨハネス・F・ファン・オーファーメール・フィッセル

(Johannes F. van Overmeer Fisscher, 1800-1840)、そしてさらに重要なフィリップ・フランツ・フォン・シーボルトらの収集書籍である。(中略)これら核となるコレクション 594 点については、J.J. ホフマンによって著され、シーボルトによって1845年に出版された目録 *Catalogus librorum et manuscriptorum Japnicorum a Ph. Fr. De Siebold collectorum* に書誌が記述されている。

1858年には、最後の出島商館長ヤン・ヘンドリック・ドンケル・クルティウスが、最後の江戸参府の途上で日本書籍約100点を入手した。

19 世紀中に、これらの書籍はオランダ政府に購入され、ライデンの民族学博物館、すなわち現在の国立民族学博物館に所蔵された。

#### 収蔵

1881 年に、民族学博物館長のリンドー・セルリエ (Lindor Serrurier, 1846-1901) は日本書籍コレクションをライデンにある二つの国立機関、すなわち民族学博物館とライデン大学図書館に分割した。

「この目録の著者(すなわちセルリエ)の発案により、文法、文学、歴史、地理等に関する本は今後大学図書館に移管され、民族学博物館では、画集や絵本など日本の民族学の研究に有用な書籍のみを保管することにした。」(L. Serrurier, *Bibliothèque Japonaise*, 1896, p. vi)

しかし、セルリエによる選書はやや雑だったと見え、美しく彩色された絵本は民族学博物館に残ったが、そうではない多くの民族学に関する文献が大学図書館に移管された。

J. J. ホフマン教授の没後、さらに多くの日本書籍が大学図書館へ移管された。大学図書館の西洋写本コレクションの中に、「故ホフマン教授の遺品中の日本書籍および日本で刊行された書籍の一覧 [...]」<sup>(ママ)</sup>と題された手書きの目録(BPL 2186:J8)が残っている。ホフマン旧蔵の欧文刊本 — その多くは日本学・中国学に関するものである — の一覧は、大学図書館アーカイブズ(BA1 J 39, 'Lijst der nieuw ingekomen boekwerken 1880-1881', July-September)にある。

ライデン大学の医学教授だったヘールツ(A.J.C Geerts, 1843-1883)が所蔵した日本書籍の一部も大学図書館に収蔵された。彼の収集書籍については、セルリエが 1887 年に出版した *Catalogue des livres japonais* に記述されている。

#### 今後の追加

不定期に追加されることがある。実施中の収集計画はない。

このコレクションガイドから、大学図書館の日本書籍コレクションの核となるブルムホフ-フィッセル-シーボルト収集書籍とドンケル・クルティウス収集書籍は、ライデン民族学博物館から分割移管されたものであることがわかる。また、民族学博物館から移管されたもの以外の主要なコレクションとして、ホフマンとヘールツ由来の資料群があることもわかる。しかし、わからないことも多い。民族学博物館から移管された資料は何点あり、どのようなタイトルが含まれていたのか。ホフマン、ヘールツに由来する資料は何点あり、どのようなタイトルが含まれていたのか。これらの疑問に答える先行研究や既刊目録はなく、これを知ろうと思えば、ガイド中に言及されている 19 世紀に刊行または作成された目録類を手がかりに、一点一点資料を確認し、蔵書印や識語から各個体の来歴を検証していくほかないのである。

(4)

## 2 「故ホフマン教授の遺品中の日本書籍および日本で刊行された書籍の一覧 [...]」(BPL 2186:J8)

しかし、コレクションガイドで言及される目録が十分な情報を持っているとも限らない。ホフマン関係文書に遺された「故ホフマン教授の遺品中の日本書籍および日本で刊行された書籍の一覧 [...]」(以下「BPL 2186:J8」)の冒頭には、実際には次のように記されている。

bijlaag bij brief R. Ethnogs. Mus, v. 12 July 1878, Reg. n/40

Lijst der Japansche of andere in Japan gedrukte boekwerken uit de nalatenschap van wijlen Prof. Dr. J.J. Hoffmann, die niet behoeven de dienen tot aanvulling van de Bibliotheek de afdeling Japan en onderhurigheden in het Rijks-Ethnographisch Museum te Leiden.

Geschiedkunde

56. Twaalf pen in twee afdeelingen, ieder van 6, in octavo, titel: veike monogatari; vertellingen betreffende het stamhuis Taira, eerste afdeling uitgeg 1829; 2 afd in 1849. ... (下線原文)

### 【日本語訳】

書簡「1878年7月12日付け民族学博物館 Reg.n/40」への添付文書

民族学博物館の日本およびその周縁地域部門の図書館に追加される必要のない、故ホフマン教授の遺品中の日本書籍および日本で刊行された書籍の一覧

歴史

56. 12冊2巻 各巻6冊 8つ折判、標題「平家物語」すなわち平家一族についての物語、巻一1829年刊、巻二1849年刊。…

以下、「歴史」「詩歌」「道徳」「漢和辞書」「語彙集そのほか辞書類」「蘭和辞書」「百科事典」「風俗・習慣」「年鑑」「地理・地図」「植物学・鉱物学」の部門に分けて、全38点(うち1点は棒線で削除されている)が並ぶ。

文書の標題に見られる「民族学博物館の日本およびその周縁地域部門の図書館に追加される必要のない」という限定句は、ここに挙げられた38点が、ホフマンが所蔵した日本書籍のすべてではないことを示唆する。また、BPL 2186:J8に掲載された各タイトルには、「56」のように番号が振られているが、こ

これは順不同で並んでおり、欠番も多い。この一覧は、より大きな全体の中の一部を並べ変えたものであると考えられる。他方、この限定句の内容からは、ここに掲げられたタイトルが実際に大学図書館に収蔵されたのか確証が得られない。収蔵されたとすれば、民族学博物館の図書館に追加される必要がなかったから大学図書館に収蔵されたということだろうか。しかし、大学が保存するホフマン関係文書の中には、BPL 2186:J8 のほかにホフマンが所蔵した日本書籍に関わる文書は発見できなかった。

念のため、大学図書館の資料受入簿(BA1 J39)も確認したが、こちらは確かに欧文書籍についてのみの目録であり、日本書籍について手がかりになる情報はなかった。

### 3 悉皆調査

幸い大学図書館から特別コレクション室所管の日本書籍の悉皆調査のための便宜を図っていただけたため、1点ずつ現物を確認し、蔵書印や献辞など来歴にかかる情報を採取した。その上で、ホフマンと関係が深いと思われる資料群の抽出を試みた。

採取した情報は、次のとおりである。

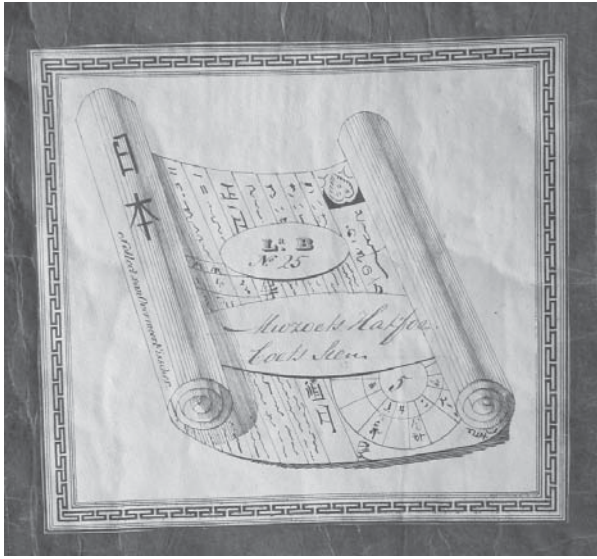
#### (1) 蔵書票・蔵書印等

ヨーロッパ人所有者・ヨーロッパにおける所蔵機関の変遷を追うため、以下に掲げる蔵書票・蔵書印等の有無を確認した。

- I. オーフアーメール・フィッセル蔵書票(図1-a、図1-b)  
フィッセルの収集した書籍(a)・地図(b)にフィッセル本人によって貼付された蔵書票。
- II. 王室宝蔵庫ブロムホフ収集品印“Uit de Verzam COCK BLOMHOFF”(図2)  
ハーグの王室宝蔵庫(Koninklijk Kabinet van Zeldzaamheden)に所蔵されたブロムホフの収集品に押印されている。各冊の一丁表上部またはそれに準じる箇所に押印。
- III. 王室宝蔵庫フィッセル収集品印“Uit de Verzam OVERMEER FISSCHER”(図3)  
王室宝蔵庫に所蔵されたフィッセルの収集品に押印されている。各冊の一丁表上部またはそれに準じる箇所に押印。
- IV. シーボルト書誌票(図4)  
シーボルト収集書籍に貼付された付箋。片仮名でタイトル、著者、出版地、出版年、巻数等が記載されている。

(6)

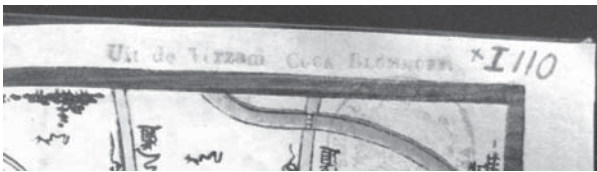
- V. シーボルト日本博物館蔵書印(図5左)“VERZAMELING VON SIEBOLD”  
1859年に民族学博物館長レーマン(Conrad Leeman, 1809-1893)がシーボルト日本博物館の収蔵品の管理を引き継いだ際に押された印<sup>9)</sup>。各冊の一丁表上部またはそれに準じる箇所に押印。
- VI. 民族学博物館受入印(図6)“RIJKS ETHNOGRAPHISCH MUSEUM”  
ライデン民族学博物館(Rijks Ethnographisch Museum)所蔵品として登録されたことを示す受入印。
- VII. ライデン大学図書館受入印(ALBB)(図5右)“ACAD. LUGD. BAT. BIBL.”  
ライデン大学図書館所蔵品として登録されたことを示す受入印。
- VIII. ライデン大学図書館受入印(R. UNIV)(図7)“R. UNIV. BIBLIOTHEEK LEIDEN”  
ライデン大学図書館所蔵品として登録されたことを示す受入印。明確な時期区分は不明だが、ALBBよりは後の時代に使用された。
- IX. LeviniWarneri 基金票(図8)  
ライデン大学が維持する Levinus Warnerius 基金によって購入された図書に貼付された票。
- X. そのほか、ヨーロッパの所有者によると思われる印記がある場合には記録した。



(図1-a)



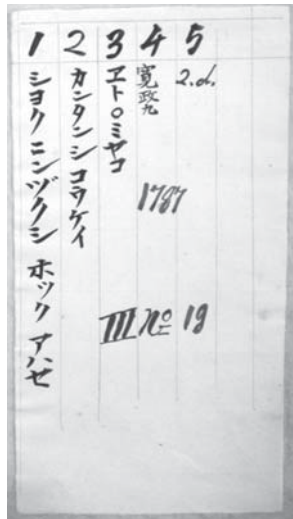
(図1-b)



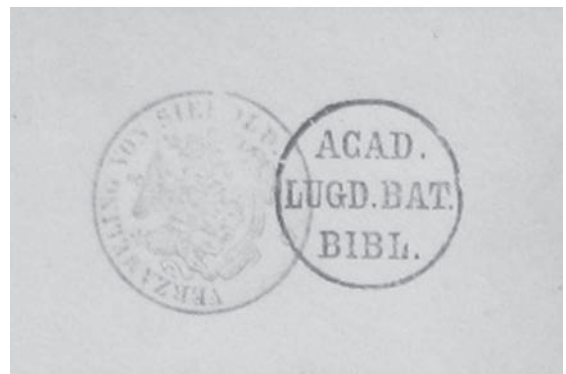
(図2)



(図3)



(図4)



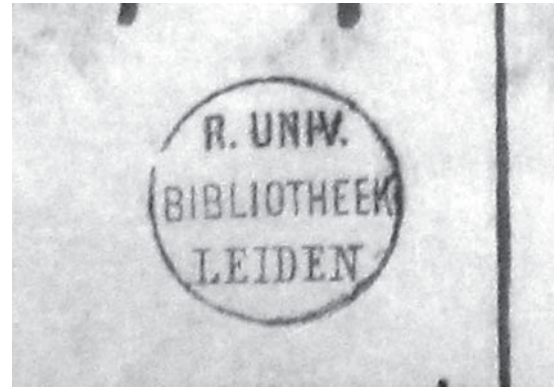
(図5左、図5右)



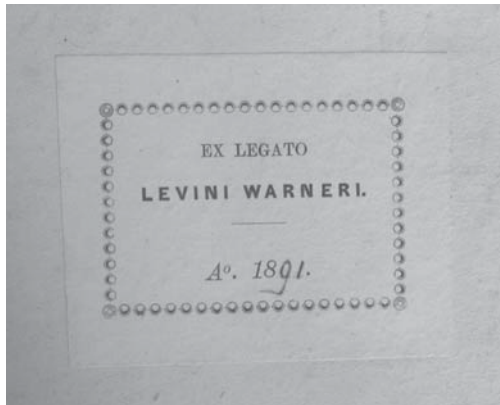
(8)



(図6)



(図7)



(図8)

## (2) 番号等

書籍の大部分には、現在の請求記号の外に、何らかの番号や分類名が付与されている。*Catalogus librorum et manuscriptorum Japonicorum a Ph. Fr. de Siebold collectorum, Verzameling van Japansche boekwerken*<sup>10</sup> (以下『シーボルト収集図書目録』)、*Verzameling van Japansche boekwerken, door J.H. Donker Curtius op zijne reis naar Yedo in 1858 voor het rijk ingekocht*<sup>11</sup> (以下『ドンケル・クルティウス収集図書目録』)で各タイトルに振られた番号、あるいは *Catalogue des livres japonais de feu M. le docteur A.J.C. Geerts*<sup>12</sup> (以下『ヘールツ収集日本書籍目録』)で各タイトルが収められた分類部門の名前に対応している場合がほとんどであるが、そうでない場合もある。それらを記録した。

- I. 見返しまたはそれに準じるページの右上に、鉛筆で数字が記載されている。番号のみの場合のほか、多くの場合、数字の前に、「A」または

「I」が冠されている。欠番はあるが、およそ1から161までの連続した番号になる。

- II. 表紙に黒インクで「Gur」を冠したアラビア数字が記載されている。
- III. 表紙又は見開きに「J.BI」を冠したアラビア数字が記載されている。
- IV. 表紙に赤インクで大きく「N」と冠したアラビア数字が記載される
- V. 表紙又は裏表紙、見返し、標題紙に“E collection equites J.W. de Sturler”と記載され、併せて「No.」を付したアラビア数字が記載されている。約半数ほどに“Lauts”または“Leids”と読めるサインも記されている。

Vについては、記載された内容から、1824から1826年まで出島の商館長だったヨハン・ウィルヘルム・デ・ステュルレル(Johann Wilhelm de Sturler, 1774-1855)の遺品であることが明らかである。この識語を持つ資料は大学図書館に約40点ある。デ・ステュルレルが収集した日本書籍はフランス国立図書館でも所蔵しているが、同館の所蔵資料にも同様の識語が見られ、“Lauts”または“Leids”と読めるサインが半数ほどに見られる点でも特徴が一致している。両館が所蔵するステュルレル収集書籍と総合すると一連の番号を構成する。

### (3) 識語、メモ書き等

書籍に識語や献辞等、由来を示す情報が記載されている場合は、来歴についての有力な情報となるため、記録した。

以上、採取した情報に基づいて、大学図書館の日本書籍全点を、その特徴ごとにいくつかの資料群に分けた。そして、上述目録3点、および1896年までに大学図書館、民族学博物館、国立ライデン植物学研究所に受け入れられた資料の総合目録である *Bibliothèque Japonaise: Catalogue raisonné des livres et des manuscrits japonais enregistrés à la Bibliothèque de l'Université de Leyde*<sup>13</sup>(以下『セルリエ目録』)の記載内容に照らして、個体ごとに来歴が特定できるものを特定していった<sup>14</sup>。資料の特徴と収集者の関係を、表1(11項)にまとめる。

表の見方であるが、表中、より左側にある列の特徴を持つ資料群は、より右側にある列の特徴を持つ資料群を包含する関係になっている。また、ある列において複数行を縦断している枠内に記載された特徴は、その右または左隣の列に記載された別の特徴を持つ資料群のすべてに共通する特徴である。たとえば、フィッセルの蔵書票を持つ資料群の中には、シーボルト博物館印を持つものと持たないものがある。一方、シーボルト博物館印を持つ資料は、フィッセル蔵書票、王室宝蔵庫ブロムホフ収集品印、王室宝蔵庫フィッセル収集品印、シーボルト書誌票のいずれかを持つ資料群の中に共通に発見できるということを示している。

#### 4 ホフマン旧蔵書の範囲

さてここから、ホフマン旧蔵書と言いうる資料群の範囲を検討していく。表1中、太い点線で囲まれた部分は、ホフマンの署名や、ホフマンに宛てた献辞などから、ホフマン旧蔵書であったことが明らかな資料約 30 点である。

たとえば、『和訓栞 前編』(【Ser.45】)の見返しには洋紙が貼付され、次のように記載されている。

Dr. J. Hoffmann  
at Leyden

with compliments of  
Guido F. Verbeek.  
Nagasaki. 1 Nov. 1861.

By the kindness of L. de Vogel. Esq.  
(下線原文)

#### 【日本語訳】

ライデンのホフマン博士殿

ガイド F. フルベークより謹呈  
1861年11月1日 長崎

L. デ・フォーヘル殿のご厚意による

また、この献辞のすぐ下に別の洋紙が貼付され、別の筆跡で 次のように書かれている。これはおそらくホフマンによるものだろう。(難読部分を[...]で示す。以下同じ。)

Pro Mem. volgens von den officier machinist Hardes (Sept. 1861) bevinden zich te Nagasaki zeil, zendling, sprecht Japansche.

Verbeek missionaire voor Amerika  
Dr. Smidt, [...], voor Amerika.

#### 【日本語訳】

備忘。技官ハーデスからの便り(1861年9月)によると、長崎に宣教師が渡来し、彼らは日本語を話すとのこと。

(表1)

蔵書票・蔵書印	番号・記号	識語・献辞・メモ書き	目録	収集者
X I～IX以外のヨーロッパ人の印記等		Scaliger, Vossius, Musea Regio Hagioなど。	セルリエ目録	印記に依る。
I フィッセル蔵書票	「I」に続いてシーボルト収集目録の番号を記載した黒縁ラベルが表紙に貼付されている場合が多く見受けられる。		シーボルト収集図書目録	O. フィッセル
III KKフィッセル収集品印				
II KKプロムホフ収集品印				
IV シーボルト書誌票				
VI 民族学博物館受入印			ドンケル。クルティウス収集図書目録	D. クルティウス
IX ワーナー基金印	III 表紙又は見開きに「J.B.I」を冠したアラビア数字が記載されている。		セルリエ目録	不明
VII 大学図書館受入印 (ALBB)	ヘールツの目録による部門を記載。例：「Catalogue XI Section Ethnographie」 I 見返し右上に、鉛筆で1～167までの番号記載。多くの場合、数字の前に、「A」または「I」が冠されている。 IV 赤インクで大きく「N」と冠したアラビア数字が記載されている。 V 「E collection equitis J.W. de Sturier」に続き、「No.」を付したアラビア数字。約半数ほどに、「Lauts」又は「Leids」と読めるサインが記載。 ④	「E collection de Baron v. der Cappelen J.H. Ballfoort」等	セルリエ目録	②
VIII 大学図書館受入印 (R. UNIV)	II 表紙に黒インクで、「Gur」を冠したアラビア数字が記載されている	ホフマンとの関係を示す献辞・識語	セルリエ目録	①
				不明

フルベーキ、アメリカの宣教師  
シュミット博士、アメリカの [...]

デ・フォーヘルは、*A List of Names of Foreigners in Japan in Bakumatsu and Early Meiji (1850-1900)*<sup>15</sup> に記載のある Louis Cornelis Jan Albert de Vogel と同一人物と見られ、1860年から1861年頃に出島の領事館に出納長補として滞在した人物である。ここに記載された内容から、『倭訓栞 前編』は、幕末に日本に滞在した宣教師フルベーキが、デ・フォーヘルを通じて1861年11月にホフマンに贈ったものであることがわかる。

しかし、これら識語や献辞などからホフマン由来であることがわかる資料群(表1中、①の部分)と先に見た BPL 2186:J8 に記載された資料群は、4点しか重ならない。ホフマン旧蔵書の全体は、両者を含む、より大きな集合だったのである。

では、表1中①の部分に加え、②③④を含めた太い実線で囲まれる資料群をすべてホフマン由来と考えることはできないだろうか。これらはすべて、見返しまたはそれに準じる部分の右上部に鉛筆で番号が記載されているという共通の特徴を持つ。番号の頭には、「A」または「I」が付くこともあり、異なる三つの体系のようにもみえるが、「A」や「I」が付くもの、何も付かないものを総合すると、1から161までのおよそ一連の番号になるため、一つの同じ体系の中の三つの変形と考えたほうが妥当であろう。表1中①に含まれる資料にも、三種の付番方法が混在している。したがって、これらの番号がホフマン由来の書籍を指し示す符号となりうるかどうかの検証は、ひとまずアルファベット部分の有無及び「A」や「I」の別を無視して行うことができるように思われる。以下、表1中の②③④について、順に見ていく。

(1) ファン・デル・カペレン遺品本(表1中②)

赤インクで、大きく「N」を冠したアラビア数字が書かれた8点のうち、4点に、“Baron van der Capellen(ファン・デル・カペレン男爵)”の遺品であったことを示すメモが残っている。書き方は一定しないが、「カペレン男爵収集品から」の品である旨が記され、“Balfoort(バルフォールト)”という署名が入っている点は共通している。『大坂指掌図』(【Ser.345A】)には、より詳しく、“gekocht door Hoffmann(ホフマンによって購入された)”の一言が加えられており、さらに、『都會節用百家通』(【Ser.12】)には、「N」を冠したアラビア数字は見えなかったものの、カペレンとバルフォールトの名前のほか“Op die Auctie gekocht door Hoffmann(競売でホフマンによって購入された)”の一言が加えられている。これは前半のバルフォールトの署名が入る部分とは別の筆跡、別の色のインクである。また、『類葉百人一首教文庫』(【Ser.135】)には、カペ

レンの名前は見え、 “e collection de Balffoort(バルフォールト収集品から)”と記されている。

(表2)

記号	請求記号	タイトル	メモ書き
N.26	Ser.480	文政武鑑	“e. coll. de Baron v. d. Capellen, Balffoort”
[N.1]	Ser.12	都會節用百家通	“e. collection de Bar v. der Capellen J.H.Balffoort”  “Op die Auctie gekocht door Hoffmann”
N.28	Ser.483	文政八乙酉年曆	なし
N.3	Ser.923	永世万代改曆大雑書 ／増補改正年号重宝記	“e. Coll. Baron van der Capellen, Balffoort”
N.6	Ser.319C	新改御江戸繪圖	なし
N.13	Ser.374	木曾路名所一覽	“e. coll Bar. v. d. Capellen, Balffoort”
N.8	Ser.345A	大坂指掌圖	“e. collection de Bar v. der Capellen J.H.Balffoort”  “gekocht door Hoffmann”
N.21b	Ser.781	絵本忠臣蔵[前編]	なし
N.25	Ser.135	類葉百人一首教文庫	“e. collection de Balffoort”

ファン・デル・カペレン男爵は、1819年1月から1826年1月までオランダ領インドネシア総督の任にあり、帰国後、国务大臣になった Baron Godert Alexander Gerard Philip van der Capellen (1778-1848) のことであろう。遺品の競売目録 *Catalogue d'une précieuse et très-intéressante collection d'objets orientales, consistant en une riche série d'idoles des Indous*<sup>16</sup>が、ライデン民族学博物館とアムステルダム大学図書館に一部ずつ残っていた。目録によれば、競売は、1849年6月6日午前10時にオランダ南部の都市ユトレヒトの A. シンケル (A. Sinkel) 氏の店で開催された。資料に残る「N」を冠したアラビア数字は、この競売目録中で各タイトルに付与された番号である。アムステルダム大学図書館のものには、ホフマンの署名とホフマンの手によると思われる「1 Balf」、「Balffoort 30.00-」といったメモ書きが見える。アムステルダム大学図書館は、競売目録等を寄贈で大量に受け入れており、ホフマンの署名のある競売目録が何故アムステルダム大学図書館にあるのか、その経緯はわからなかった。しかし、もしこれが実際にホフマンのものであったとすれば、ホフマンがこの競売に関心を持ち、いくつかの品を購入したバルフォールトの名を知っていたことになる。

J.H. バルフォールトについては、詳しいことはわからなかったが、ユトレヒト在住の珍品蒐集家だったと思われる。1884年に開催された彼の収集品の競売の目録が残っている<sup>17</sup>。表2に掲げたメモ書きは、本の天地方向と無関係に記されているので、日本書籍や日本語について深い造詣を持っていたとは思えない。

ホフマンの没する1878年より前に開かれたバルフォールト収集品の競売目録は現在のところ発見できていないが、おそらく、あったのであろう。“e. coll Bar. v. d. Capellen, Balffoort”とメモ書きのある資料は、一度はバルフォールトの所有になったカペレン由来の書籍で、その後、ホフマンに購入されたと思われる。“e. coll Bar. v. d. Capellen, Balffoort”というメモ書きのない資料については、1849年の競売時にホフマンが直接購入したものなのかもしれない。また、“e. collection de Balffoort”と記載されたものについては、カペレン由来ではないバルフォールト所有の日本書籍だったのかもしれない。いずれにせよ、この表1中②の部分の資料群について、ホフマンと関係が深い資料群であるということはいえそうである。

## (2) デ・ステュルレル遺品本(表1中③)

次に、表1中③の部分を見ていく。これは、表紙等の目立つ場所に“e. collectione equites J.W. de Sturler (J. W. デ・ステュルレル騎士収集品から)”とペン書きされている資料群である。

1855年に没した元オランダ商館長 J. W. デ・ステュルレルが収集した日本書籍については、ホフマンの著書『日本語文典例証』の「序言」に、息子の陸

軍少佐 W.L. ステュルレルから贈られたとの記載がある<sup>18</sup>。したがって、ホフマンがステュルレル由来の書籍を所有していたことは間違いない。したがって、これらがホフマン旧蔵書だった可能性は極めて高い。

上述のとおり、ステュルレルはパリのフランス国立図書館にも書籍を寄贈している。フランス国立図書館がステュルレル由来のものとして保管する日本書籍の中に“e. coll. Bar. v.d. Capellen, J.H. Balfoort”とメモ書きされたカペレン由来の書籍が1冊紛れていることから、ステュルレルの遺品中の書籍はまずホフマンの元に送られ、ホフマン手持ちの他の書籍と同じ場所でしばらく保管された後、ホフマンが手元に残さなかったものがフランス国立図書館へ贈られたと推察できる。ホフマンの選書は控えめで、冊数としてはフランス国立図書館に送られたものの方が多い。J.W. ステュルレルの没した月日ははっきりしないが、フランス国立図書館における受入日付が1855年8月29日であることから、ステュルレルの遺品中の書籍がホフマンの所有となったのはこの日以前ということになる<sup>19</sup>。また、このことから、ホフマンがバルフォールト経由でカペレン由来の書籍を入手したのも、この日付以前ということになる。

### (3) 見返し上部に付番された資料群(表1中④)

以上、表1中、②と③の資料群については、ホフマンとの関係—おそらく所有していたということ—を確認することができた。では、見返し右上部に1から161までの一連の番号が鉛筆書きされているという特徴だけを共有し、そのほかにはホフマンとの関係を探るためのヒントがない資料群(表1中④)についても、ホフマン由来であるということが言えるだろうか。

大学図書館が保存する1878年の大学の選書委員会文書(Archief van Curatoren)から、ホフマンの書籍の購入の経緯を追う。

大学図書館から内務大臣へ宛てられた1878年10月29日付の1877-1878年の活動報告<sup>20</sup>に次の一文がある。

Door het Rijks aangekocht eer in de Bibliotheek geplaatst de door wijlen den titulaire Hoogleraar J. J. Hoffmann nagelaten collectie Japansche en Chineesche boeken en op Japan en China betrekking hebbende werken, waar van cataloguïen zijn vervaardigd respectievelijks door <sup>[マ]</sup> <sup>[マ]</sup> W. S. Serrurier conservator aan het Ethnographische museum en door Prof. G. Schlegel.

### 【日本語訳】

肩書き上の教授<sup>21</sup>J.J. ホフマンが遺した日本および中国の書籍と日本および中国についての文献のコレクションが、国によって購入され、図書館



の所管になった。これらの目録は、それぞれ民族学博物館の収藏品管理官のセルリエとシュレーヘル教授によって作成された。

この活動報告には結論のみが書かれているが、実際の図書館への受入れが決定するまでには、紆余曲折があった。

ホフマンが没したのは、1878年1月19日である。約一月後の2月16日に、ライデン大学中国学教授のシュレーヘル(Gustaaf Schlegel, 1840-1903)は、大学の選書委員会にホフマン旧蔵書の買い上げを提案した<sup>22</sup>。彼は、ホフマンの蔵書は「中国語、日本語で書かれた文献だけでなく、これらの言語について、またこれらが話されている国々についてのヨーロッパ言語で書かれた書籍も含んでおり、大変な努力と時間と経済的犠牲を払って収集されたこれらの書籍が公売に付されて散逸し、我が国から失われてしまうとすれば非常に残念である」<sup>23</sup>として、大学図書館による収蔵を強く勧め、3月6日には、欧文書籍、中国書籍、日本書籍から成るホフマン旧蔵書全体に対して5000ギルダーという購入価格を委員会へ提案した<sup>24</sup>。金額が報告されると、大学図書館長のプライヘルス教授は、購入予定の書籍の目録の作成を求め、作成作業は民族学博物館の館長代行であったレーマン(Conradus Leemans, 1809-1893)を通じて、ホフマンの下で日本語を学び、当時民族学博物館の収藏品管理官になっていたセルリエに依頼された<sup>25</sup>。

一方、民族学博物館もホフマン旧蔵の日本書籍の一部を受け入れたいと内務大臣に申し出たため<sup>26</sup>、当時の内務大臣コッペロ(Jan Kappeyne van de Coppello, 1822-1895)は、レーマンに対して、所蔵を希望する日本書籍の目録を提出するように命じた<sup>27</sup>。民族学博物館が所蔵を希望する日本書籍の目録は、5月29日にレーマンからコッペロに送付されたようである。コッペロに送付された目録と送付状は、オランダ国立公文書館が保存する内務省文書中に保存されているはずであったが、見出すことができなかった。代わりに、民族学博物館に保管されていた送付状の控えを参照する<sup>28</sup>。

Minister van binnenl. Zaken.

's Gravenhage

Berigt op te schrijven van 14 Mei 1878 n.35 Afd KKenWW ,  
betreffende Japanische Boekwerken

R. Ethnographische Museum te Leiden

Leiden, 29 mei 1878

In voldoening aan het verlangen omschreven aan het slot [...] van den Kant dezès vermeld schrijven heb ik de eer Uwe Excell. hierbij te door toekennen, de door des Coservator Mr. L. Serrurier

opgemerkte omschrijvende lijst der Japansche en in Japan gedrukte boek werken, uit de nalatensch. van wijlen Prof. Hoffmann, die ter aanvulling kunnen strekken aan de Bibliotheek bij de Afdeeling Japan en Onderhurigheden van het R. Ethnografisch Museum. De nummers zijn die waarmede de boeken thans gemerkt zijn, de volgorde mocht wijziging ondergaan wegens de meer stelselmatige indeeling die de heer Serrurier waardig heeft geacht.

De Director van het R.Mus Oudheden, waarnemend direct .van het Rijks Ethnographish Mus.

【日本語訳】

内務大臣

ハーグ

関連文書:1878年5月14日 第35号 Afd KKenWW ;

件名:日本書籍

ライデン国立民族博物館

ライデン, 1878年5月29日

上に示した関連文書の末尾に示された要望に応え、収蔵品管理官セルリエが作成したホフマン教授の遺品中の日本語文献および日本で出版された書籍のうち、民族学博物館の日本および周辺地域部門図書館の蔵書に加えるべきものの一覧を貴殿に献上します。付与されている番号は、現在書籍に記載されているものです。順番は、セルリエ氏が推奨する、より体系的な分類に変更すべきでしょう。

考古学博物館館長／民族学博物館館長代行 レーマン

この後、セルリエは、博物館に必要なない書籍の目録を大学図書館のために作成することを一度は拒むが、結局のところ説得されて作成し、6月12日にレーマンからコッペロに提出された。その3日後にレーマンからコッペロへ宛てた文書<sup>29</sup>を引用する。

Berigt op te schrijven van 14 Junij 1878 n.20 Afd KKenWW ,  
betreffende Catalogisering van de Japanische boeken nagelaten door  
wijlen dern Hoogleeraar Hoffmann

Rijks Ethnographische Museum te Leiden

Leiden, den 15 junij 1878

Met de lijst, als Bijlage gevoegd bij mijn begeleidend schrijven van 12 Jiniij jl. No.40, is reeds voldaan aan het verlangen, in Uwe

Excellenties brief van 1 Junij jl. LaB. Afd. Onderwijs, en nader in den aan den kant vermelden brief omschreven.

Zoo als ik de er had in mijn aangehaald schrijven te vermelden, bevatte de daarbij gevoegde lijst de omschrijving der boeken, enz. die niet behoeven te dienen tot aan vulling van de Bibliotheek der Afdeeling Japan en onderhoorigheden in het lijks Ethnographisch Museum.

De[...]bij mijn schrijven van 29 mei jl No35 overgelegde lijst geeft de omschrijving der boeken enz. Die wèl ter aanvulling kunnen strekken van <sup>[ママ]</sup> genoemde biblitotheek.

Beide lijsten te zamen leveren de omschrijving van al de Japansche of in Japan gedrukt boekwerken, kaarten, enz. door wijlen den Hoogleraar Hoffmann negelaten.

De nummer wijzen allen de volgorde aan, die de boeken in de, ten sterfhuisse aanwezige kast innamen, of nog innemen; in de lijsten is eene wetenschappelijke indeling in het oog gehouden, waardoor de eerst genoemde volgorde moest verlaten worden.

De Director van het Rijks Museum van Oudheden, waarnemend direct van het Rijks Ethnographish Mus.

Aan Zijne Excellentie  
den Minister van Binnenlandsche Zaken  
te 's Gravenhage.  
(下線原文)

### 【日本語訳】

関連文書:1878年6月14日 第20号 Afd KKenWW ;件名:ホフマン旧蔵日本書籍の目録作成について  
ライデン国立民族博物館  
ライデン, 1878年6月15日

本年6月12日 第40号の送付状と共にお送りした目録によって、本年六月一日付けの貴殿からの書簡(LaB. Afd. Onderwijs)および上に掲げた関連文書に示された貴殿の要望に十分にお応えしました。

上述の送付状にも示したとおり、当該送付状に同封されたのは民族学博物館の日本および周辺地域部門図書館の蔵書に加える必要のない書籍等の目録です。

また、本年5月29日第35号文書とともに提出した目録は、博物館図書館に加えられるべき書籍等について記述しています。

この二つの目録を合わせると、故ホフマン教授が遺した日本語の書籍および日本で刊行された書籍のすべてについて記述目録が作成されたことになります。

付与されている番号は、故ホフマン氏宅の書棚にこれらの書籍が並んでいた、また現在並んでいる、順番を表しています。目録中では、学術体系に配慮して分類しました。したがって、元の並び順は放棄されるべきでしょう。

考古学博物館館長／民族学博物館館長代行 レーマン  
内務大臣閣下  
ハーグ

以上二点の文書からわかる点はいくつかある。まず、目録はホフマン旧蔵の全ての日本語書籍、日本で刊行された書籍について作成されたこと。次に、それらは博物館に収蔵されるべき書籍とその必要のない書籍の二つの資料群に分けて作成されたこと。第三に、目録が作成される以前に、書籍には番号が振られており、それは、ホフマン宅の書棚に並んでいた順に振られていたということ。第四に、その番号は、作成された両目録中に記載されていたことである。

二つの目録はコッペロとプライヘルスの間で幾度かやり取りされ、ホフマン旧蔵書の帰属について話し合われた<sup>30</sup>。プライヘルスは、書籍がより多くの人々に利用され、公共財としての価値を十分に発揮するためには、分野別の博物館図書室に分散して置かれるよりも大学の総合図書館に集められるのが望ましいという考えの持ち主であった。したがって、ホフマン旧蔵書についても民族学博物館と大学図書館に分割されることを好まず、すべて大学図書館に送られるのが適当であるとの考えを大学の選書委員会に示した<sup>31</sup>。プライヘルスが選書委員会に示した意見書は大部になるうえ、そのほとんどの部分はホフマン旧蔵書の帰属とは直接関係のない内容なので、全文の引用は避け、一部のみ以下に示す。(日本語訳中の[ ]に囲まれた部分は筆者が補った。)

Over de deugdelijkheid der splitsing, welke de H.H. der Ethnographisch verzameling aan zijne Excellentie hebben voorgesteld, waag ik geen oordeel. Ik beken de gedacht niet te hebben kunnen ontdekken, die geleid heeft om de verschillende nummers juist zoo en niet anders onder de beide verzamelingen te verdeelen. Het ware te begrijpen, dat voorstanders van special boekverzamelingen aan de wetenschappelijke inrichtingen toe te voegen, de werken over Japansche industrie en Kleedij (als op lijst B onder het hoofd Encyclopedie en Zeden en gebruiken) aan de Ethnographische verzameling hadden toegewezen, maar, Japansche

geschied- letter- taalkindige en andere wetenschappelijke werken aan de algemeene Universiteits-Bibliotheek. Volgens de voorgestelde splitsing, zal dit geheel anders zijn.

### 【日本語訳】

民族学博物館の諸氏が提案されている[ホフマン旧蔵書の]分割が、まともな提案といえるのか私は断言を慎もう。しかし、率直に言って、数々の書籍がまさにこのような形で二分されるに至った理由を私は見出すことができない。各研究機関がそれぞれ特別な図書コレクションを持つことを支持する立場の者が、日本の産業や装束に関する文献(目録 B の百科事典および風俗・慣習の項目にあるような文献)を民族学コレクションに加え、日本の歴史・文学・言語に関する資料を総合的な大学図書館へ送ろうというのなら、理解できる。しかし、提案された分割は、まったくそのようにはなっていないのである。

ここでは、目録のひとつが「目録 B」と言及されている点に注意したい。文脈から推し量るに、これは、博物館に必要ないとされた方の目録であろう。もう一方の目録への言及はないが、コッペロとプライヘルスの間で議論される中で、2つの目録が各々「目録 A」「目録 B」と呼ばれた可能性は考えられないだろうか。もしそうであれば、ホフマン旧蔵書と推定されうる資料群の一部に見られる「A」という文字について、「目録 A」に収載された書籍だけに、後から書き加えられたものであると考えることができるのではないか。

プライヘルスの意見書は、選書委員会を通してコッペロに届けられ、最終的にホフマン旧蔵書の全てが大学図書館に所蔵されることが決まった<sup>32</sup>。書籍が大学図書館に届き、確認作業が行われたのは 1878 年 10 月 7 日のことである。

以上、ホフマン旧蔵の日本書籍が大学図書館に移管されるまでの経緯を振り返った。書籍に番号が振られていたという記述の発見は、見返しに付番された書籍全体がホフマン旧蔵書であった蓋然性を大きく高めた。大学図書館の日本書籍コレクション中の他の資料群を見渡しても、既刊の目録と関係ない一連の番号が振られていて、かつ上に見たような大学図書館と博物館との議論の対象になりうるだけの相応の規模のある資料群は他にない。しかも、この資料群の中に、ホフマンの署名やホフマン宛の献辞が含まれる書籍やホフマンが受け取ったとされるステュルレル由来の書籍が含まれているのである。表 1 中の④部分についても、ホフマン旧蔵書と考えることができるように思う。

#### (4)『セルリエ目録(1896)』 BA1-C52

最後に、ホフマン旧蔵書の範囲に関わるもうひとつの資料を挙げたい。かつて大学図書館の業務用として使用されたようだが、現在は、大学図書館関係

文書の中に保存されている一冊の『セルリエ目録』(【BA1-C52】)<sup>33</sup>(以下、「BA1-C52」)である。

『セルリエ目録』は、ホフマン旧蔵書が大学図書館の所蔵になってから18年後に刊行された目録で、ホフマン旧蔵書も記述の対象となっている。その書誌記述には来歴に関する情報はないため、現在、閲覧室にある『セルリエ目録』を眺めても、いずれの本が誰に由来するのかわからない。しかし、BA1-C52には、タイトルの書誌事項の傍らの余白に、「A1」「B2」「A3」「A4」「I 334」という記号が書き込まれている場合がある。また、鉛筆で「I. Collectie Siebold / A. Collectie Hoffmann (I. シーボルト収集資料 / A. ホフマン収集資料)」と書かれた紙片が、標題紙の前に挿入されているのである。記号が記載された時期は不明だが、前後に保存された文書と筆跡が似ていることから、概ね19世紀末から20世紀前半と言えらるうか。

照合してみると、「I」で始まる記号が付与されているものについては、メモ書きのとおり、シーボルト収集資料であった。続く数字は『シーボルト収集図書目録』中の各タイトルに振られた番号に対応している。

また、BA1-C52中に見られる「A」付番号、「B」付番号の数字部分は、ホフマン旧蔵と推定される書籍の見返しに付与された番号と概ね一致した。「概ね」というのは、BA1-C52中でこれらの番号が付与されているが、現物には何も記載されていないものが相当数あったからである。BA1-C52中で「A」「B」付番号が注記されているタイトル数は197点に上るが、現物で確認できたのは133点である。約三分の一について現物に番号が記載されていないということになる。しかし、照合できた三分の二については、数点を除き一致した。点数が増えているのは、欠番等が補充されたためである。また、「B」付番号が付与されているタイトル34点について、BPL 2186:J8に含まれるタイトルと照合したところ、すべて含まれていた。ただし、BPL2186:J8に含まれるタイトルの方が若干(棒線で削除されたものを含めて4点)多い。

一面において、BA1-C52は、ホフマン旧蔵書について、明確な回答を与えてくれたことになる。上に引用したプライヘルスの意見書が、民族学博物館に必要な書籍について「目録B」と言及していることを考慮すると、このBA1-C52中で「A」付番号が振られたタイトルはホフマン旧蔵書のうち博物館に必要とされた書籍、「B」付番号が振られたタイトルは博物館に不要とされた書籍と考えることができる。「B」付き番号の資料群が、BPL 2186:J8の内容とほぼ一致したことは、BA1-C52に記載された情報の信頼性の高さを担保するだろう。

しかし、他面において、BA1-C52は、これまで拠り所としてきた見返しに付与された番号の頼りなさを露呈した。かつて存在したとされる番号は、必ずしも現在も書籍中にあるわけではないということである。であるとすれば、現在見えている番号も、もしかするとホフマンの遺品が整理された当時ではなく、別の時

点で改めて記載された可能性もあるのだ。さらに、現物の中には、「A」や「B」ではなく「I」(シーボルト収集資料に貼付されたラベルの「I」とは別体系の見返しに鉛筆書きされた「I」)が冠されているものや、まったくアルファベットが冠されていないものもある。これについても、現在のところ有効な説明はできない。

## 5 ホフマン旧蔵書目録試案

このような留保付きであるが、これまでの調査結果に基づき、ホフマン旧蔵と推定される書籍の目録試案を提示したい。

基本的には、BA1-C52 に示された情報に依拠する。ここで示された情報が、他の方法で得られた結果をすべて含んでおり、さらに欠番を補充するなど、情報の完全性を高めているからである。ただし、今後のより慎重な調査のため、現物に示される番号が BA1-C52 と異なるときは、注記した。4(3)で見たように、見返しに記載された番号はホフマン宅の書棚に書籍が並んでいた順を示している。数字の部分については、BA1-C52 と現物はほぼ同じ結果を示しているから、ある程度信頼を置くことができるだろう。今、目録試案もこの番号に従って提示する。試案を眺めてみると、書架にはおよそ次のような順序で並んでいたことがわかる。

- 1 四書
- 2 神話
- 3 心学書
- 4 植物書・園芸書
- 5 辞書・辞典類
- 6 往来物
- 7 文学
- 8 地図
- 9 その他

ホフマンの蔵書を探る面白みは、彼の本の選び方に思想と情熱を感じるからである。ステュルレルから寄贈の申し出を受けたときに、半数以上は受け取らなかったことからわかるように、彼は何でもかんでも手元においておくタイプではない。また、経済的にも何でも買えるというような境遇ではなかっただろう。

しかし、欲しいものについては、情熱的に手を尽くした。幕末に海軍士官として来日したカッテンディーケ(W.J.C. Ridder Huysen van Kattendijke, 1816-1866)から得た辞書類は、多くがシーボルト収集書籍の中にある書籍の複本であり、既にホフマンが内容をよく知っている辞書類であった。『倭訓栞』

に出会う前のホフマンが、最もよく参照した辞書類である。ホフマンはカッテンディーケの赴任前に彼に日本語を教えるなど、二人は親しい関係にあったから、赴任に際し日本からの送付をあらかじめ依頼したのかもしれない。ホフマンによる書籍の入手経路については、まだ十分にわかっていないため稿を改めたいが、一点、興味深い資料を見つけたので紹介しておく。ホフマンが江戸の須原屋茂兵衛に宛てた手紙の草稿である。日本語で次のように書いてある。(原文にあった訓点・振り仮名は省略した。)

江戸日本橋通一丁目

須原屋茂兵衛様<sub>江</sub>

石川雅望先生所集「雅言集覧」之自いノ部至なノ部九冊ハ我有之。若此書本ノ次ノ冊嘉永年以來出版セラレシ事アラバ余此ヲモ買と子ガイ申シソロ

我 一千八百七十一年 夏 和蘭學者 副福満<sup>34</sup>

この手紙が実際に須原屋に送られたのかどうか確認しがたいが、『セルリエ目録』によれば、ホフマンは『雅言集覧』の刊行されていない部分についても写本として入手したらしい<sup>35</sup>。ただし、ホフマン没後、セルリエの手元にあったときに火事のために焼失している。

ホフマンは、16世紀末のロドリゲスの文典の内容を一つ一つ吟味し、19世紀言語学の成果を踏まえた新しい日本語文法の理論を組み立てようとしていた。ホフマンが遺した日本語研究に関する手稿は膨大な量に及び、彼の日本語研究にこれらの書籍がどのように使われたのか、俄かに結論を出すのは難しい。しかし、シュレーヘルのいうとおり、彼が「大変な努力と時間と経済的犠牲を払って」構築した蔵書は、彼の新理論構築のための重要な資源であったに違いない。これまで、ホフマンの蔵書については、目録がなかったこともありほとんど研究がされてこなかった。今回、目録試案を提示することが何かのきっかけになれば幸いである。

筆者の力量不足による誤認も多数あると思われる。識者からのご教示を乞いたい。(本文中の【】で囲まれた記号はライデン大学図書館における請求記号である。)



## ホフマン旧蔵書目録試案

### 凡例

- ・本目録は、BA1-C52の余白に記載された記号を元に作成したホフマン旧蔵書と思われる書籍の一覧である。
- ・各タイトルには簡単な書誌事項を付したが、詳細は Kerlen, H., *Catalogue of pre-Meiji Japanese books and maps in public collections in The Netherlands* = オランダ国内所蔵明治以前日本関係コレクション目録. Amsterdam: J.C.Gieben, 1996. を参照されたい。
- ・左端の「A」付／「B」付記号は、BA1-C52による。これと異なる付番が現物の見返し等に記載されている場合は、注記中に「見返し付番:」として示した。ただし、必ずしも見返しにあるとは限らない。
- ・【 】で囲まれた記号は、現在のライデン大学図書館における請求記号である。
- ・来歴に関わる情報が書籍中にある場合には、注記に示した。注記の採取にあたり、難読字は□で示した。
- ・「改装」は洋製本へ改装されていることを示す。
- ・同番号中に複数のタイトルが含まれている場合は、同番号内に複数の書誌事項を記載した。

A1 四書集註 朱熹註 朱錫旅校正 佐藤坦編 10冊  
大阪 秋田屋太右衛門 [ほか9名] 安政4 (1857)  
<注>「大学」巻頭に“Van den heer W. J. C. Baron Huissen van Kattendyke uit Japan ontvangen Maart 1860, J. Hoffman”とあり。

【SER. 611】

B2 四書國字辨 宇成之編 10冊  
皇都 弘簡堂須磨勘兵衛 寛政6 (1794) 序  
<注>「中庸」第一章から第十九章までの独語訳草稿添付。見返し付番:A2

【SER. 612】

A3 經典餘師易經 溪百年世尊編 7冊  
大阪 河内屋喜兵衛 [ほか11名] 文化14 (1817)  
經典餘師詩經 溪百年世尊編 8冊  
大阪 豊田屋宇左衛門 [ほか6名] 天明6 (1786) 序  
經典餘師小学 溪百年世尊編 5冊  
浪華 河内屋和助 [ほか8名] 文久3 (1863)  
經典餘師書經 溪百年世尊編 6冊  
大阪 森本太助 [ほか7名] 嘉永1 (1848)  
經典餘師孟子 溪百年世尊編 10冊

大阪 秋田屋市兵衛[ほか 8 名] 文久 1 (1861)  
 <注>角書:「増訂」

【SER. 613】

A4 妹背山[婦女庭訓] 近松半二[ほか 4 名]著 1 冊  
 [大阪] 玉水源次郎 [明和 8 (1771)]  
 <注>A4 に含まれる他 2 冊と共に帙入。  
 假名手本忠臣蔵 竹田出雲 [二代] [ほか 2 名]著 1 冊  
 大坂 玉水源治郎[ほか 2 名] 寛延 1 (1748)  
 伊達娘恋緋鹿子 菅専助[ほか 2 名]著 1 冊  
 大坂 玉水源治郎[ほか 3 名] 安永 2 (1773)  
 <注>角書:「起請方便品書置寿量品」

【SER. 783】

B5 名山圖會 河村元善編 谷文晁画 3 冊  
 江戸 須原屋茂兵衛 文化 9 (1812)  
 <注>角書:「日本」。天巻表紙に“E collectione equites J.W. de  
 Sturler”とインク書きあり。見返し付番: I 5

【SER. 366】

B5a 江戸職人歌合 石原正明編 2 冊  
 無刊記  
 <注>見返し付番: 5a

【SER. 703\*】

B5b 職人盡發句合 瓦全編 鴨のあがた主画 2 冊  
 京 野田治兵衛[ほか 2 名] 寛政 9 (1797)  
 <注>天巻表紙に“E collectione equites J.W. de Sturler”とあり。見  
 返し付番: 5b

【SER. 703\*】

A6 日本書紀 [舎人親王][編] 改装 1 冊  
 無刊記  
 <注>角書付外題:「校正大字／神代巻」。「本朝史書」「日本書紀  
 講例」「卷第一」「卷第二」から成る。本朝史書頭に“L. de Vogel”の  
 印あり。卷第二末に「西原哲之進／[花押]」と墨書あり。見返し付番:  
 6

【SER. 420】

(26)

- A7 古事記 太安萬侶著 本居宣長編 長瀬真幸校 改装 1冊  
皇都 河南儀兵衛[ほか2名] 享和 3 (1803)  
<注>角書付外題:「訂正／古訓古事記」。巻頭に「呈 生 辱知生 津田真一郎」と墨書あり。見返し付番:7  
【SER. 419】
- A8 道二翁道話 初一六編 中沢道二著 八宮齋編 15冊  
浪速 河内屋喜兵衛[ほか2名] 弘化 3 (1846)  
【SER. 591】
- A9 心学道の話 奥田頼杖著 平野橘翁重猷編 21冊  
初一三編 天保 15 (1844)－弘化 2 (1845) 刻成  
京都 伏見屋祐七郎[ほか3名]  
<注>角書:「石門」。三編末に廣陵花蹊堂の広告あり。初一七編とも、見返し付番: I 9  
  
四・五編 弘化 (1847) 刻成  
京都 伏見屋祐七郎[ほか4名]  
<注>角書:「石門」。五編末に廣陵花蹊堂の広告あり。  
  
六・七編  
[京都] 伏見屋祐七郎[ほか6名]  
<注>角書:「石門」  
【SER. 673】
- B10 草木性譜 清原重巨撰 清原重光校 沼田月齋政民・水谷豊文画 3冊  
無刊記  
<注>文政 8 (1825) 序。見返し付番:なし  
【SER.977\*\*】
- B11 草木育種 初編 岩崎灌園常正著 2冊  
江戸 山城屋佐兵衛[ほか3名] 文化 15 (1818)  
<注>見返し付番:なし  
【SER. 1054\*】  
  
草木育種 後編 阿部櫟齋喜任著 2冊  
江戸 山城屋佐兵衛[ほか3名]  
<注>天保 8 (1837) 序。見返し付番:なし  
【SER. 1054】
- A12 草木圖説 前編 飯沼慾齋長順著 5冊  
京都 林芳兵衛[ほか7名] 安政 3 (1856)  
【SER. 987】

- B13 山海名産圖會 法橋關月画 5冊  
 高木遷喬堂 寛政 11 (1799)  
 <注>角書:「日本」 卷一表紙に“E collectione equites J.W. de Sturler”とあり。見返し付番:なし  
 【SER. 879\*】
- A14 草木圖説 前編 飯沼慾斎長順著 5冊  
 無刊記  
 <注>A12と同版。見返し付番:なし  
 【SER. 987\*】
- A15 草木錦葉集 前編 水野忠敬著 大岡雲峯・関根雲停画 3冊  
 江戸 須原屋茂兵衛[ほか4名] 文政 12 (1829)  
 <注>SER. 1076\*の巻一表紙に“NB. geschenken door Dr. van den Broek”とインク書きあり。  
 草木錦葉集 後編 水野忠敬著 大岡雲峯・関根雲停画 3冊  
 無刊記  
 2セット 【SER. 1076】【SER. 1076\*】
- A16 花彙 新校正 島田充房雍南・小野蘭山著 山本亡羊校正 8冊  
 皇都 大文字屋勝輔 天保 14 (1843)  
 <注>文盛堂蔵版。見返し付番: I 16  
 【SER.965 B】
- A17 畫本野山草 後素軒橋保国画 改装 1冊  
 [大阪] 柳原喜兵衛 文化 3 (1806) 求板  
 <注>見返し付番:なし  
 【SER.964】
- A18 あつめ草 脇坂義堂弘道[ほか2名]著 下河辺拾水・速水春暁斎画  
 改装8冊  
 京都 吉野屋仁兵衛  
 <注>あつめ草 一―三編各10冊のうち、一部の巻を数冊ずつ綴じ直したもの。第1冊:晴 上・下;勤孝見せばや 上・下、第2冊:御代の恩沢 一―四、第3冊:売ト先生安楽伝授 上・中・下、第4冊:福相になるの伝受;和合長久の伝受、第5冊:あつめ草三編序、第6冊:民の繁栄 一―六、第7冊:目の前 上・下、第8冊:勸善小話。  
 【SER. 628】
- A19 保羅寄羅馬人書 1冊  
 無刊記  
 <注>見返し 安政 2 (1855)  
 2セット【SER. 620】【SER. 620\*】

(28)

- A20 聖差言行伝 1冊  
無刊記  
＜注＞見返し 安政 2 (1855)  
2セット【SER. 619】【SER. 619\*】
- A21 路加伝福音書 1冊  
無刊記  
＜注＞見返し 安政 2 (1855)。巻頭に“Luke in Japanese, Dr  
Hoffmann Leyden, with Compl. J. N. Johnson, Hong Kong ,  
November 1855” とインク書きあり。>  
2セット【SER. 617】【SER. 617\*】
- A22 約翰伝福音書 1冊  
無刊記  
＜注＞見返し 安政 2 (1855)  
2セット【SER. 618】【SER. 618\*】
- A23 路加伝福音書 1冊  
無刊記  
＜注＞見返し 安政 2 (1855)  
2セット【SER. 616】【SER. 616\*】
- A24 増補字彙畫引大成 高橋今光編 改装 1冊  
皇都 西邨平八[ほか 3名] 天明 4 (1784)  
＜注＞角書:「天明新刻」  
【SER. 31】
- A25 眞艸字引大成 改装 1冊  
京都 中川屋新七[ほか 7名] 文政 3 (1820)  
＜注＞角書付外題:「改正倭玉／眞艸字引大成」。乾巻末に「文久  
壬戌年葉月之中旬 古川大人茶竹之口求之」と墨書あり。  
【SER. 32】
- A26 増續大廣益會玉篇大全 毛利貞齋編 改装 2冊  
浪速 鳥飼市兵衛[ほか 5名] 安永 9 (1780)  
＜注＞角書付外題:「四声附韻冠註補闕類書字義／増續大廣益會  
玉篇大全」 見返し付番:なし  
【SER. 33】
- A27 増補字林玉篇大全 三浦道齋著 改装 1冊  
攝陽 敦賀屋九兵衛[ほか 8名] 安政 3 (1856)  
＜注＞角書:「新鐫校正」  
【SER.28】

- A28 四声字林集韻 鎌田環齋禎編 改装 1 冊  
 大阪 河内屋喜兵衛[ほか 4 名] 文化 12 (1815)  
 <注>見返し付番: I 28  
 【SER. 758】
- A29 大全早引節用集 改装 1 冊  
 大阪 木屋伊兵衛[ほか 2 名] 万延 1 (1860)  
 <注>見返しに“geschenk van Nosawa Ikuda aan J.Hoffmann,  
 1862”、扉前の遊び紙に「和蘭京人 贈ホフマン先生 野澤伊久太」  
 と朱書、「大日本通信使松平石見守 家来野澤伊久太」と墨書あり。  
 【SER. 39 B】
- A30 大全早引節用集 山下重政著 浅田観三・山本張堂校 改装 1 冊  
 大阪 柏原屋與左衛門[ほか 9 名] 嘉永 4 (1851)  
 <注>角書:「大增補」  
 【SER. 39 A】
- A31 偶奇假名引節用集 田仲宣編 1 冊  
 大阪 加賀屋善蔵[ほか 4 名] 文政 3 (1820)  
 <注>角書付外題:「万倍加増奇偶／假名引節用集」 見返し付番:  
 なし  
 【SER. 43\*】
- B32 雑字類編 柴野栗山著 柴野貞毅汎愛堂編 辻言恭校正 2 冊  
 大阪 河内屋喜兵衛[ほか 11 名] 天明 6 (1786)  
 <注>上下巻とも巻頭に“Van den heer W.J.C Ridden Huissen van  
 Kattendyeke in 1859 uit Japan ontvangen J J Hoffmann”とインク書  
 きあり。  
 【SER. 44\*】
- B33 雑字類編 柴野栗山著 柴野貞毅汎愛堂編 辻言恭校正 2 冊  
 大阪 河内屋喜兵衛[ほか 11 名] 天明 6 (1786)  
 <注>見返し付番:33  
 【SER. 44 A】
- B34 和蘭字彙 道氏 (H. Doeff) 著 桂川甫周(二世)編 17 冊  
 江戸 山城屋佐兵衛 安政 2-5 (1855-1858)  
 <注>見返し付番:A34  
 【SER. 65】

(30)

B35 和蘭字彙

B34と同版。

<注>見返し付番:なし

【SER. 65\*\*】

B36 NIEUW VERZAMELD JAPANS EN HOLLANDSCH  
WOORDENBOEK 源昌高編 5冊

Nakats [中津] Kamija Filojosi 1810

<注>第1冊扉枠外に“J.J. Hoffmann”とインク書きあり。見返し付番:なし

【SER. 59\*】

B37 訳鍵 藤林元紀編 3冊(改装1冊)

無刊記

<注>巻頭に“E collectione equites J.W. de Sturler”とあり。見返し付番:A37>

【SER. 61】

A38 NIEUW-GEDRUCT BASTAARDT WOORDEN-BOEK (バスタール  
字引)大江春塘著 2冊

江戸 1822

<注>見返し付番:なし

【SER. 60】

B39 三語便覧 村上英俊茂亭義茂著 3冊

江戸 須原屋伊八・山城屋佐兵衛 安政3(1856)

【SER. 82\*】

A40 [対話集初編] 1冊

長崎 安政6(1859)

<注>點林堂蔵版

【SER. 85】

蕃語小引初編 2冊

長崎 増永文治 万延1(1860)

<注>點林堂蔵版

【SER. 84】

B41 學語編 大典禪師編 改装1冊

皇都 脇坂仙二郎[ほか2名] 明和9(1772)

<注>裏見返しに「大日本文久二年 六月十一日 贈 市川渡珉 和蘭學士 副福満君」とあり。見返し付番:なし

【SER. 134\*】

- A42 文藻行潦 山本北山信有著 三浦義見・山本時亮校正 改装1冊  
 東都 須原屋伊八[ほか4名] 天明 2 (1782)  
 <注>第三冊末に「大日本文久二年 六月十一日 贈 市川渡珉  
 和蘭學士 副福満君」とあり。見返し付番: I 42  
 【SER. 766】
- A43 助語審象 三宅橘園口授 釋海定・三上惇・宮永寅筆録 改装 3冊  
 京 菱屋孫兵衛[ほか5名] 文化 14 (1817)  
 <注>卷頭に“Van den heer W.J.C Baron Huissen van  
 Kattendyeke in 1860 uit Japan ontvangen Maart 1860. J J  
 Hoffmann”とインク書きあり。  
 【SER. 53】
- A44 和歌呉竹集 尾崎雅嘉著 改装 1冊  
 大阪 河内屋嘉七 寛政 9 (1797)  
 <注>見返し付番: I 44  
 【SER. 767】
- B45 四聲解環 皐門訳註 改装 1冊  
 大阪 河内屋佐助 安政 6 (1859)  
 <注>原装裏見返しに“1863 junij 9, J. Hoffmann”とインク書きあり。  
 見返し付番:なし  
 【SER. 757】
- A46 倭訓栞前編 谷川士清著 改装 9冊  
 津 篠田伊十郎[ほか4名] 文政 13 (1830)  
 <注>第1冊見返しに“Dr. J. Hoffmann at Leyden with  
 compliments of Guido F. Verbeek Nagasaki. 1 Nov. 1861. By  
 the kindness of L. de Vogel. Esq.”とインク書きあり。  
 倭訓栞中編 谷川士清著 14冊(一部改装)  
 京師 本屋儀助・風月庄左衛門 文久 2 (1862)  
 【SER. 45】
- B47 倭名類聚鈔 源順撰 那波道円編 5冊  
 京兆 錢屋惣四郎  
 <注>寛文 7(1667)年版の後印と嘉永 4 (1851)再刻版が1セット  
 ずつあったと思われるが、現状では、SER.47の巻一・巻五が寛文 7  
 年版、巻二―四が嘉永再刻版、SER.47\*はその逆の組み合わせで保  
 存されている。SER. 47 卷頭に“Van den heer W.J.C Baron  
 Huissen van Kattendijeke in 1860 uit Japan ontvangen J J  
 Hoffmann”とインク書きあり。見返し付番:47  
 2セット【SER. 47】【SER. 47\*】



(32)

- A48 語彙 阿之部 木村正辞[ほか7名]編 5冊  
東京 編輯寮 官板 明治4(1871)  
＜注＞角書:「官版」  
語彙活語指掌 木村正辞[ほか7名]編 1冊  
東京 編輯寮 官板 明治4(1871)  
＜注＞角書:「官版」

【SER.50】

- A49 江戸大節用海内蔵 高井蘭山・中村経年編 菊川英山俊信画 2冊  
江戸 山城屋佐兵衛[ほか5名] 文久3(1863)  
＜注＞角書:「改正増補」

【SER.14】

- B50 都會節用百家通 高安芦屋昶著 鎌松荷編 丹羽桃溪画 改装1冊  
大阪 河内屋木兵衛[ほか4名] 文政2(1819)  
＜注＞角書付外題:「新撰増益／都會節用百家通」 卷頭に“e.  
collection de Bar v. der Capellen J.H.Balfoort” と赤インク書き、  
“Op die Auctie gekocht door Hoffmann” とインク書きあり。見返  
し付番:A50

【SER.12】

- A51 万代節用字林宝蔵 [文政文生編] 改装1冊  
京都 赤井長兵衛[ほか2名] 文化3(1806)

【SER.6】

- A52 頭書増補訓蒙圖彙 中村惕斎編 下河辺拾水画 改装1冊  
京都 吉野屋仁兵衛 寛政1(1789)  
＜注＞卷頭に“E collectione equites J.W. de Sturler”と鉛筆書き  
あり。見返し付番:なし

【SER.2】

- A53 大福節用無尽蔵 田浦泰菴・岡本方円斎編 松川半山画 1冊  
大阪 敦賀屋喜蔵 文久3(1863)  
＜注＞角書:「森羅万象」

【SER.15】

- A54 假字類纂 関根江山為寶集 1冊  
江戸 英文蔵 嘉永7(1854)  
＜注＞見返し付番:I54

【SER.104】

- A55 都林泉名勝図会  
＜所在不明＞

- B56 平家物語圖會前編 高井蘭山編 有阪蹄齋画 6冊  
大坂 河内屋茂兵衛[ほか2名] 文政12(1829)  
平家物語圖會後編 高井蘭山編 有阪蹄齋画 6冊  
大坂 河内屋茂兵衛[ほか2名] 嘉永2(1849)  
<注>見返し付番:I56  
【SER.434】
- B57 農家益後編 乾 大蔵永常著 1冊  
無刊記 文化7(1810)序  
<注>見返し付番:なし  
【SER.1074】
- A58 養生辨 水野沢齋義尚撰 3冊  
大阪 河内屋茂兵衛[ほか6名] 天保13(1842)  
<注>角書付外題:「朱雀経験／養生辨」 見返し付番:I58  
【SER.1142】
- B59 装束図式 2冊  
京都 出雲寺和泉掾 元禄5(1692)  
<注>巻頭に“E collectione equites J.W. de Sturler”とインク書きあり。見返し付番:I59  
【SER.806】
- B60 養蚕秘録 上垣守国著 西村中和・速水春暁齋画 3冊  
京都 出雲寺和泉掾 享和2(1802)序 (SER.1080\* は無刊記)  
<注>角書:「扶桑国第一産」 見返し付番:なし  
2セット【SER.1080\*】【SER.1080\*\*】
- A61 栗毛の弥次馬二編 十返舎一九著 一盛齋芳直画 1冊  
無刊記  
<注>A61-A61Hまで合わせて帙入。 見返し付番:61  
【SER.654】
- A61A 女扇忠臣要 鶴屋南北著 五渡亭国貞画 3冊  
江戸 丸屋文右衛門 文政9(1826)  
<注>表紙に“E collectione equites J.W. de Sturler”とインク書きあり。見返し付番:61A  
【SER.660】

(34)

- A61B 姫万両長者 上・中編 曲亭馬琴著 歌川国貞・歌川美丸画 2冊  
江戸 森屋治兵衛 文政9(1826)  
<注>表紙に“E collectione equites J.W. de Sturler”とインク書きあり。見返し付番:61B  
【SER. 662】
- A61C 東紫対重着 福亭禄馬著 北尾美丸画 2冊  
江戸 西宮新六 文政9(1826)  
<注>表紙に“E collectione equites J.W. de Sturler”とインク書きあり。見返し付番:61C  
【SER. 655】
- A61D 聞勇八幡祭 前・後編 市川団十郎著 北尾美丸画 2冊  
江戸 伊藤与兵衛 文政9(1826)  
<注>表紙に“E collectione equites J.W. de Sturler”とインク書きあり。見返し付番:61D  
【SER. 657】
- A61E 情競傾城嵩 前・後編 坂東秀佳著 歌川国安画 2冊  
江戸 鶴屋喜右衛門 文政9(1826)  
<注>表紙に“E collectione equites J.W. de Sturler”とインク書きあり。見返し付番:61E  
【SER. 656】
- A61F よつや怪談 尾上梅幸菊五郎著 溪斎英泉画 2冊  
江戸 若狭屋与市 文政9(1826)  
<注>表紙に“E collectione equites J.W. de Sturler”とインク書きあり。見返し付番:61F  
【SER. 661】
- A61G 娘席書 尾上梅幸菊五郎著 歌川五渡亭国貞画 2冊  
江戸 丸屋甚八 文政9(1826)  
<注>角書:「皇国文字」表紙に“E collectione equites J.W. de Sturler”とインク書きあり。見返し付番:61G  
【SER. 659】
- A61H 尾上松緑百物語 尾上梅幸菊五郎著 弑陽斎豊国画 2冊  
江戸 鶴屋喜右衛門 文政9(1826)  
<注>表紙に“E collectione equites J.W. de Sturler”とインク書きあり。見返し付番:61H  
【SER. 658】
- A62 万延武鑑 5冊  
江戸 須原屋茂兵衛 万延1(1860)

<注>角書:「新板改正」 見返し付番:62

【SER. 490】

B63 文政武鑑 改装4冊

江戸 須原屋茂兵衛 文政9 (1826)

<注>角書:「新板改正」 卷一表紙に“E collectione equites J.W. de Sturler”とインク書きあり。卷三、卷四は2セットあり、一方は表紙に「N.26」、卷末に“e. coll. de Baron v. d. Capellen, Balfoort”と赤インク書きあり。見返し付番: I 63

【SER. 480】

A64 及び A65 袖玉武鑑 1冊

東都 須原屋茂兵衛 文久 2 (1862)

<注>表紙に“Aan den Hoogegeleerde Heer Proffessor J. Hoffmann, Nisi Sioesoeke”とインク書きあり。見返し付番:65

2セット【SER. 492】

A66 文政八乙酉年曆 南都陰陽師藤村河内 折本1帖  
文政 7 (1824)

<注>表紙に「N.28」と朱書き。見返し付番:66>

【SER. 483】

A67 [天保十五甲辰年歳] 2枚  
弘化 1-2

<注>見返し付番: I 67

【SER. 487】

A68 天保十六乙年の大小 1枚  
新板 しろ屋嘉七 天保 16 (1845)

<注>見返し付番: I 68

【SER. 487】

A69 文政六三つのとひつし乃寛政曆 箕曲主水著 折本1帖  
無刊記

<注>見返し付番: I 69

【SER. 481】

A70 山水奇観 前・続編 淵上旭江禎白亀著・画 8冊  
浪華 柳原喜兵衛[ほか4名] 寛政 12(1800)

<注>前編卷一表紙に“E collectione equites J.W. de Sturler”とインク書きあり。見返し付番:150

【SER. 367】

B71 雲根志 後編 木内小繁重暁著 5冊

大阪 高橋興文堂 安永 8 (1779) 序

<注>表紙に“E collectione equites J.W. de Sturler”とインク書きあり。見返し付番:なし

雲根志 三編 木内小繁重暁著 5冊

無刊記 享和 1 (1801) 序

<注>角書付外題:「湖上石話／雲根志 三編」。表紙に“E collectione equites J.W. de Sturler”とインク書きあり。広告:大阪 高橋平助。見返し付番:なし>

【SER. 1035\*\*\*】

B72 鼓銅図録 増田綱編 丹羽桃溪画 蜀山人筆 1冊

大阪 住友氏蔵版

<注>見返し付番:I 42

【SER. 901】

A73 [新撰大工雛形] 木暮甚七著 5冊

江戸 須原屋茂兵衛 宝暦 9 (1759)

<注>見返し付番:73

【SER. 914】

A74 詞八衢 本居春庭著 2冊

大坂 河内屋和助[ほか 10名]

<注>見返し付番:74

詞八衢補遺 中島広足著 2冊

大坂 河内屋和助[ほか 6名] 安政 5 (1858)

【SER. 55】

A75 [狂歌百人一首] 文々舎編 岳亭定岡画 守川捨魚筆 改装 1冊

無刊記

<注>欠丁多数

【SER. 735】

A76 秀雅百人一首 緑亭川柳編 葛飾北斎[ほか 4名]画 1冊

江戸 山口屋藤兵衛[ほか 12名] 弘化 5 (1848)

<注>見返し付番:77

【SER. 713】

B77 日本王代一覧 卷之二一六 林鶯峯編 8冊

無刊記

<注>表紙に“E collectione equites J.W. de Sturler”とインク書きあり。見返し付番:77

【SER. 424 A】

- A78 合書童子訓 木村明啓編 暁鐘成画 和田正兵衛筆 1冊  
大坂 綿屋喜兵衛[ほか7名] 嘉永1(1848)  
<注>角書:「教訓絵抄幼学重宝」  
【SER. 143】
- B79 薬品応手録  
<現物特定不可>
- A80 永世万代改暦大雑書／増補改正年号重宝記 1枚  
江戸 丸屋文右衛門[ほか3名]  
<注>上辺に「N.3」、「e. coll. de Baron v. d. Capellen,  
Balfort」と赤インク書きあり。>  
【SER. 923】
- A82 求古図譜織文之部 高島千春著 1冊  
無刊記. 天保11(1840)序  
<注>見返し付番: I 82  
【SER. 906】
- A83 [諸通文鑑] 戸田栄治玄泉堂筆 2冊  
大阪 秋田屋太右衛門[ほか3名] 天保12(1841)  
<注>角書付外題:「必家撰用／諸通文鑑」  
【SER. 124】
- A84 商人日用書状筥 龍章堂筆 1冊  
大坂 河内屋和助 [文化13(1819)]  
<注>五維堂蔵版。見返し付番: I 84  
【SER. 949】
- A85 嘉永用文章 三松館先生著 松川半山画 1冊  
大阪 秋田屋太右衛門 [ほか6名] 嘉永2(1849)  
【SER. 125】
- A86 書状手習鏡 西川龍章堂著 松川半山画 1冊  
大阪 秋田屋太右衛門 [ほか5名] 嘉永6(1853)  
【SER. 128】
- A88 妙薬集 1冊  
江戸  
<注>角書:「気附早引」 見返し付番:なし  
【SER. 1126】

(38)

- A89 年中用文章 西川龍章堂・小川玉水亭主人筆 2冊  
京都 大谷仁兵衛 [ほか4名] 天保8(1837)  
<注>見返し題:「増補/年中用文章」。京都瑠瑪書房蔵版  
【SER. 123-I/II】
- B90 富士見十三州輿地之全図  
<所在不明>  
【SER. 252】
- A91 改正日本輿地路程全図 長久保玄珠作 柴邦彦識 1舗  
浪華 浅野彌兵衛 [ほか6名] 文化8(1811)  
【SER.220 B】
- A92 改正日本輿地路程全図 柴邦彦識 1舗  
無刊記 安永4(1775)  
【SER.220\*\*】
- A93 改正日本輿地路程全図  
<現物特定不可>
- A94 東海道名所一覽 葛飾北斎戴斗画 1舗  
江戸 衆星閣[ほか2名] 文政1(1818)  
<注>見返し付番:I 94  
  
木曾路名所一覽 葛飾北斎戴斗画 1枚  
[江戸] 衆星閣 [ほか2名] 文政2(1819)  
<注>書袋に「N.13」、裏に“e Coll Bar. v.d. Ceppelen, Balfoort”と  
赤インク書きあり。見返し付番:I 94  
【SER. 374】
- A95 銅鐫日本輿地全図 1舗  
無刊記  
<注>見返し付番:なし  
【SER. 227】
- B96 [御江戸大繪圖] 高井蘭山作 1舗  
江戸 岡田屋嘉七・出雲寺万次郎 万延1(1860)  
<注>角書:「萬延改正」。見返し付番:なし  
【SER. 321\*】
- B97 御江戸大繪圖  
<現物特定不可>

- B98 新改御江戸繪圖 南杣笑楚満人 1 舖  
江戸 西村與八・西村宗七 [文政年間(1818-1829)]  
＜注＞角書:「再版」 見返し付番: I 98  
【SER. 319 C】
- A99 泰平御江戸大繪圖 高井蘭山校正 1 舖  
江戸 和泉屋市兵衛[ほか 2 名] [安政年間]  
＜注＞見返し付番: I 99  
【SER. 322】
- B100 攝州大阪地圖細便覧 栗谷可藤治 1 舖  
浪速 石川屋和助 弘化 2 (1845)  
＜注＞角書:「新正増補」 見返し付番:100  
【SER. 348 A】
- A101 大坂指掌圖 法橋玉山 赤[松]善応校正 小林平八彫 1 舖  
浪華 播磨屋九兵衛 寛政 9 (1797)  
＜注＞上辺に「N.3」と朱書きあり。角書:「増修」 見返し付番: I 101  
【SER. 345A】
- A102 萬壽大阪細見圖 1 舖  
浪華 伊丹屋善兵衛・河内屋太助 文久 3(1863)  
＜注＞積典堂蔵梓。表紙に“Plattegrond van Ohsaka 1863. Ten  
geshenke ontovangen van Sano Dusayemon 25 Maart, 1868.  
Hoffmann”とインク書きあり。見返し付番: I 102  
【SER. 350】
- A103 摂津大坂圖 1 舖  
浪花 石川屋和助 天保 13 (1842)  
＜注＞角書:「改正」 見返し付番: I 103  
【SER. 348】
- B104 御開港横濱大繪圖 玉蘭齋橋本謙作 1 舖  
江戸 丸屋徳造 万延 1 (1860)  
＜注＞書袋に「繪圖一張 和蘭文學 副福満先生ニ呈ス 大日本通  
信使従臣 市川渡拜」と墨書あり。見返し付番:104  
【SER. 396A】
- A105 京都指掌図 1 舖  
京都 竹原好兵衛[ほか 2 名] 天保 11 (1840)  
＜注＞角書:「天保改正」  
【SER. 309】
- A106 京都一覽圖繪 五雲亭歌川貞秀画 1 舖  
江戸 松林堂藤岡屋慶次郎  
＜注＞見返し付番:106  
【SER. 391】



(40)

- A107 箱館全図 1 舗  
春樹堂 安政 2 (1855)  
＜注＞見返し付番:なし  
【SER. 203】
- A108 蝦夷地全図 1 舗  
春樹堂 安政 2 (1855)  
＜注＞表紙に“NB:geschenk door Dr. van den Broek”とあり。見  
返し付番:なし  
【SER. 206】
- A110 九州之図  
＜所在不明＞
- A111 肥前長崎圖 1 舗  
長崎 耕寿堂 [安政年間 (1854-1860)]  
＜注＞上辺に“bij missione van den 2 July 1858 ten geschenck  
aangeboden. J.Hoffmann”とインク書きあり。見返し付番: I 111  
【SER. 360】
- A112 長崎土産 磯野文齋信春著・画 1 冊  
長崎 大和屋由平 弘化 4 (1847)  
＜注＞見返し付番: I 112  
【SER.303】
- A113 いせ大和まはり名所絵圖路のり 1 枚  
奈良 大仏えづや口八 安永 6 (1777)  
＜注＞“Afkomistig van J.W. de Sturler”と赤インク書きあり。見返し  
付番: I 113 >  
【SER. 418】
- A114 [大清一統図] 新発田耘収蔵編 竹口滝三郎彫 1 舗  
無刊記  
＜注＞表紙に「ホフマン先生江贈ル 箕作秋坪」と墨書あり。見返し  
付番: I 114  
【SER. 185】
- A115 廣惠濟急方 多紀元惠著 多紀元簡校正 3 冊  
江戸 須原屋嘉助 [ほか 3 名] 寛政 2 (1790) 跋  
＜注＞表紙に“E collectione equites J.W. de Sturler”とインク書きあ  
り。見返し付番: I 115  
【SER. 1082】

- A116 兒寶古状揃 翠榮堂半山画 1冊  
大坂 秋田屋太右衛門 [ほか9名]  
安政3(1856)  
<注>角書付外題:「安政再刻 兒寶古状揃」  
【SER. 129】
- A117 都名所図会  
<現物特定不可>
- A118 [繪本鶯宿梅] 橘守国画 改装1冊  
京都 玉枝軒 植村藤右衛門 [ほか2名] 元文5(1740)  
<注>見返し付番:なし  
【SER. 3】
- A119 商賣往来講釈 1冊  
大阪 河内屋平七  
<注>角書:「萬家童訓」。見返し付番:I 119  
【SER. 948】
- A120 泰西国法論 4冊 ヒッセリング著 津田真道真一郎訳  
江戸 三家村佐平 [ほか7名] 慶応2(1866)  
<注>見返し付番:I 120  
【SER. 545】
- A121 日本往来 龍章堂閑齋筆 荑楊齋蔀閑牛画 1冊  
大阪 秋田屋市兵衛 [ほか7名] 文政10(1827)  
<注>角書:「絵入文章」 見返し付番:121  
【SER. 121】
- A122 烹襖の記 滝沢解蓑笠陳人著 柳々居辰齋画 2冊  
大坂 群玉堂河内屋茂兵衛 文化6(1809)序  
<注>下巻欠  
【SER. 641】
- B123 改正増補蠻語箋 桂川中良著 箕作阮甫補 改装1冊  
江都 須原屋伊八 [ほか2名] 安政4(1857)  
<注>扉に“Geschenk van Mitsukuri Siuhei 1862, 12 April”と鉛筆  
書きあり。見返し付番:A123  
【SER. 58】

(42)

- A124 假字本末 伴信友著 4冊  
京都 林芳兵衛 [ほか8名] 嘉永3(1850)  
<注>見返し付番: I 124  
【SER. 110】
- A125 物品識名 岡林清達著 水谷豊文編 改装2冊  
名古屋 永楽屋東四郎 [文化6(1809)]  
無刊記  
<注>出版者は見返しによる。見返し付番:なし  
【SER. 952】
- A126 繪本忠臣蔵[前編] 速水春暁斎恒章画 10冊  
京都 菱屋孫兵衛[ほか12名] 寛政12(1800)  
<注>表紙に「N.21b」と赤インク書きあり。見返し付番:なし  
【SER. 781】
- A127 類葉百人一首教文庫 改装1冊  
大坂 秋田屋太右衛門・江戸 須原屋茂兵衛 文化14(1817)  
<注>角書付外題:「女要品類／類葉百人一首教文庫」。巻頭に  
「N.15」、「e collection de Balffoort」とあり。見返し付番:127  
【SER. 135】
- A128 庭訓往来註抄 [鎌田醉翁] 著 1冊  
無刊記  
<注>見返し付番:128  
【SER. 117】
- A129 當用手習状 1冊  
大坂 河内屋嘉七 [ほか5名] 文化6(1809)  
<注>角書付外題:「御家／当用手習状」 見返し付番:129  
【SER. 120】
- A130 日本用文章 西川龍章堂主人美暢筆 1冊  
大坂 河内屋喜兵衛 天保6(1835)  
<注>角書付外題:「書状／日本用文章」  
【SER. 122】
- A131 廣益國産考 大蔵永常著 8冊  
天保15(1844)(8巻尾)  
無刊記  
<注>見返し:「攝陽 四書楼梓行」 見返し付番: I 131  
【SER. 881】

- A131a [女用手習鏡] 田中秋麿著 松川半山画 観章堂筆 改装 1 冊  
[天保年間(1830-1844)]  
無刊記  
【SER. 140】
- A132 新童子往来万家通 改装 1 冊  
大坂 鍵屋長兵衛[ほか 4 名] 弘化 2 (1845)  
<注>角書:「昼夜便蒙」 見返し付番:132  
【SER. 144】
- A133 童訓往来新大成 西川龍章堂画 森川保之筆 1 冊  
浪花 河内屋喜兵衛 [ほか 7 名] 天保 5 (1833)  
<注>角書:「童子使用萬海宝蔵」 見返し付番:133  
【SER. 142】
- A134 婚礼罌粟袋 白水著 2 冊  
大坂 松本平四郎・河内屋喜兵衛 寛政 7 (1795)  
<注>卷頭に“E collectione equites J.W. de Sturler”とインク書きあり。見返し付番: I 134  
【SER. 811】
- A135 経學拔錦國字解 古市南軒東之進興隆著 改装 1 冊  
無刊記  
【SER. 35】
- A136 雅俗幼學新書 森楓斎源愿校 2 冊  
江戸 紙屋徳八 [ほか 11 名] [安政 2 (1855)]  
<注>見返しに「贈 副布満先生 林研海」と墨書あり。見返し付番:  
136  
【SER. 46】
- A137 算法点竄指南録 初一五編 坂部広胖勇左衛門中嶽著 15 冊  
名古屋 永楽屋東四郎 文化 11 (1814)序  
【SER. 922】
- A138 双蝶々曲輪日記 竹田出雲[ほか 2 名] 著 1 冊  
大阪 玉水源治郎 [ほか 3 名] 寛延 2 (1749)上演  
<注>見返し付番: I 138  
【SER. 774】
- A139 心乃種 萩原広道葭沼編 2 冊  
大坂 河内屋喜兵衛 [ほか 4 名] 嘉永 3 (1850)  
<注>見返し付番: I 139  
【SER. 772】

(44)

- A140 お専もの語 南仙笑楚満人著 溪斎英泉画 2冊  
江戸 伊勢屋忠右衛門・西村屋與八 文政9(1826)  
<注>表紙に“E collectione equites J.W. de Sturler”とインク書きあり。  
【SER. 664】
- A141 万国指掌地名譜 大槻磐溪崇平次著 折本1帖  
無刊記  
<注>見返し:「安政4 祥苑書屋蔵版」 見返し付番:141  
【SER. 171-1/3】
- A142 大地震末代噺の種 1冊  
無刊記 [安政2(1855)]  
<注>角書「江戸」 見返し付番:I 142  
【SER. 933】
- A143 風流問答 三亭春馬文尚堂著 歌川国安画 1冊  
文政5(1822)序  
無刊記  
<注>角書:「狂戯別伝」  
【SER. 648】
- A144 性法略 神田孟恪著 1冊  
東京 紀伊国屋源兵衛 明治4(1871)  
<注>見返し付番:I 144  
【SER. 546】
- A145 三魏文鈔 初編 魏際瑞・魏禧・魏礼著 3冊  
大坂 河内屋和助 [ほか4名] 安政3(1856)  
【SER. 675】
- A146 増補伊呂波韻 1冊  
京都 村上勘兵衛 天明4(1784)  
<注>見返し付番:なし  
【SER. 49】
- A147 [タイトルなし]  
<人形で表したイロハ表>  
<注>見返し付番:なし  
【SER.107】
- A148 日本百人一首 1冊  
[江戸] 江崎屋吉兵衛・森屋治兵衛

<注>見返し付番:148

【SER. 721】

A149 銅版細画帖 坤巻 岡田春燈齋水月堂編・画 1冊

京都 岡田水月堂 [嘉永6(1853)]

<注>角書:「新鑄」見返しに「大日本之人 文久二年六月四日 市川渡 銅版名所図一冊 贈 副福満君」と墨書あり。見返し付番:なし

【SER. 368】

A151 鳳笙見切譜 1冊

写

<注>見返し付番: I 151

【SER. 796】

A152 [本朝年代記] 1冊

<節用集の頭書部分を切り抜いて綴じたもの>

【SER. 468】

A153 [タイトルなし] 1冊

写 [明治年間]

<「源助」が「サントフルール」のために書き写した日本各地の地図及び「源助」から「サントフルール」へ宛てた5月27日付の書状。>

【SER. 292】

A155 蘭学逡 藤林淳道著 1冊

文化7(1810)跋

無刊記

<注>見返し付番:155

【SER. 68】

A156 新板どどいつぶし 1冊

無刊記

<注>見返し付番:A156

【SER. 729】

A158 約翰伝福音書 1冊

東国宇院城阿度留布保流都方前 [ウィーン アドルフ・ホルツハウゼン] 明治6(1873)

<注>見返し:「版摺屋蔵活字」見返し付番: I 158

【SER. 615】

A160 [人相九面之吉凶] 1冊

<注>見返し付番:160

【SER. 1138】

A161 [タイトルなし] 1 枚  
 写  
 <琉球の地図>  
 <注>見返し付番:なし

【SER. 193\*】

- 
- <sup>1</sup> J. Rodriguez, *Éléments de la Grammaire Japonaise*, C. Landresse and Abel Rémusat (trans.) (Paris: Dondey-Dupré père et fils, 1825).
- <sup>2</sup> L. Serrurier, ‘Johannes Josephus Hoffmann’, *De Nederlandsche Spectator*, 7 (16 February, 1878), 50-51.
- <sup>3</sup> J.J. Hoffmann, *Proeve eener Japansche spraakkunst van J.H. Donker Curtius, toegelicht, verbeterd, en met uitgebreide bijvoegselen vermeerderd door J. Hoffmann* (Leiden:A.W. Sythoff, 1857).
- <sup>4</sup> J.J. Hoffmann, *Japansche Spraakleer, first. edition.* (Leiden: E.J. Brill, 1867).
- <sup>5</sup> ‘Verslag en Voorstel van de Heeren T. Roorda, A. Butgers en C. Leemans, omtrent het voorstel van den heer J. Hoffmann tot bevordering van de beoefening der Chinesche en Japansche Taal- en Letterkunde’, *Verlagen en Mededeelingen der Koninklijke Akademie van Wetenschappen. Afdeling Letterkunde. Eerste deel*, 1856, 49. ここに掲載されたオランダ王立学術協会からホフマンへ宛てた回答文書では、中国・日本書籍の公費による追加購入を認めない理由として、ホフマン自身が既に個人蔵書を持っていることを挙げている。
- <sup>6</sup> R. Effert, *Royal Cabinets and Auxiliary Branches: Origins of the National Museum of Ethnology, 1816-1883* (Leiden: Research School CNWS, 2008)
- <sup>7</sup> 奥田倫子「世界図書館紀行 ライデン大学図書館本館特別コレクション室」『国立国会図書館月報』, 618 (2012 .9), 3-14.
- <sup>8</sup> A. Vrorlijk, ‘Japanese Collection Books and Maps’, Collection Guide, Digital Special Collection, Universiteit Leiden., 2006, <http://disc.leidenuniv.nl/> (accessed: 2012-11-30)
- <sup>9</sup> R. Effert, *Royal Cabinets and Auxiliary Branches* (2008), 168-169. シーボルトの二回目の来日に当たって、シーボルトの収集品(書籍以外も含む)がレーマンに引き継がれた際、その収集品は暫定的に「Rijks Japansche Museum Von Siebold(国立シーボルト日本博物館)」と呼ばれた。

- 
- <sup>10</sup> *Catalogus librorum et manuscriptorum Japonicorum a Ph. Fr. de Siebold collectorum, annexa enumeratione illorum, qui in museo regio Hagano servantur, auctore Ph. Fr. de Siebold; libros descripsit J. Hoffmann* (1845).
- <sup>11</sup> *Verzameling van Japansche boekwerken, door J.H. Donker Curtius op zijne reis naar Yedo in 1858 voor het rijk ingekocht* (The Hague, 1882) .
- <sup>12</sup> L. Serrurier, *Catalogue des livres japonais de feu M. le docteur A.J.C. Geerts* (Leiden: E.J. Brill, 1887).
- <sup>13</sup> L. Serrurier, *Bibliothèque Japonaise: Catalogue raisonné des livres et des manuscrits japonais enregistrés à la Bibliothèque de l'Université de Leyde* (Leiden: E.J. Brill, 1896).
- <sup>14</sup> このほか、現在、ライデンの国立民族学博物館に保管されているフィッセル収集品の手書きの目録を後日確認させていただくことができた。
- <sup>15</sup> Moeshart, Herman J., *A List of Names of Foreigners in Japan in Bakumatsu and Early Meiji (1850-1900)* (Amsterdam [etc.]: Batavian Lion International, 2010)
- <sup>16</sup> *Catalogue d'une précieuse et très-intéressante collection d'objets orientales, consistant en une riche série d'idoles des indous* (Utrecht: E.L. Glinderman, 1849).ホフマンの記名が見られるアムステルダム大学図書館所蔵本の請求記号は【UBA, Nv 16546】
- <sup>17</sup> *Veilingcatalogus, boeken van J.H. Balfoort, 23 februari, 1884.* (Utrecht: C.H.E. Brijer, 1884).
- <sup>18</sup> J.J. Hoffmann , *Proeve eener Japansche spraakkunst* (1857), xv.
- <sup>19</sup> 小杉恵子. 「パリ国立図書館における十八～十九世紀収集和古書目録稿-ティチング・シーボルト・ステュルレル・コレクションを中心として」『日蘭学会会誌』1992, 17(1), 83-105.
- <sup>20</sup> UBL, Archief van Curatoren 1815-1877 (AC2), inv. no. 273, *Verlagen van Curatoren der Rijks Universiteit te Leiden over 1877-1878* (29 October, 1878), 17-18.
- <sup>21</sup> 新設の教授職に就いたホフマンは、通常の教授職とは処遇が異なっていた。Boot, Willem J., 'Johann Joseph Hoffmann: der erste Japanologe?', *Hōrin*, 16 (2009), 83-104.



- 
- <sup>22</sup> ライデン大学図書館アーカイブズ (UBL), Archief van Curatoren 1878-1953(AC3), inv.no. 4, Ingekomen stukken no.151, *Brief Schlegel* (16 February, 1878).
- <sup>23</sup> 同上。‘In de natalenschap van de onlangs overleden Hoogleraar voor de Japansche taal Dr.J.J. Hoffmann, bevindt sich eene zeer kostbare bibliotheek, zoowel van oorspronkelijke Chineesche en Japansche boeken, als ook van Europeesche werken over die talen en de landen door de sprekers dezer talen bewoond. Het zoude m.i. zeer te betreuren zijn zo deze, met zooveel moeite, tijd en geldelijk opofferingen bijeengebrachte Bibliotheek door eene publieke verkoop verspreid werd en voor ons land verloren ging.’
- <sup>24</sup> UBL, AC3, inv. no. 4, no.192 (6 March, 1878). The Museum Volkenkunde Archive (RMV), NL-LdnRMV\_A01\_004.02\_35.1878 (14 June, 1878).
- <sup>25</sup> UBL, AC3 inv.6, no.463. Attachment (3 July, 1878).
- <sup>26</sup> 民族学博物館アーカイブズ (RMV), NL-LdnRMV\_A02\_004.02\_26.1878 (18 April, 1878).
- <sup>27</sup> RMV, NL-LdnRMV\_A01\_004.02\_28.1878 (14 May, 1878).
- <sup>28</sup> RMV, ARA-archief 1837-1961 Box.3, omslagen 4.
- <sup>29</sup> オランダ国立公文書館 (NA), Minister van Binnenlandse Zaken: Afdeling Kunsten en Wetenschappen (MvBZ: KKenWW), inv. no. 2.04.13, vol. 2137, no. 107. (15 June, 1878)
- <sup>30</sup> UBL, AC3, inv. no. 6, no. 481 (22 June, 1878) 及び UBL, BA M7, no. 13/463 and 481, 2 supplements. (3 July, 1878).
- <sup>31</sup> UBL, AC3 Inv.6 no.528 (10 July 1878).
- <sup>32</sup> UBL, Bibliotheek Archief (BA) M7, no. 219 (21 September, 1878).
- <sup>33</sup> UBL, BA1-C52. Annotated copy of L. Serrurier, *Bibliothèque Japonaise: Catalogue raisonné des livres et des manuscrits japonais enregistrés à la Bibliothèque de l'Université de Leyde* (Leiden: E.J. Brill, 1896).
- <sup>34</sup> ユトレヒト大学図書館, Hoffmann Collection, box. No.12A, vol. IV-A.
- <sup>35</sup> L. Serrurier, *Bibliothèque Japonaise* (1896), 16.